

米国・イスラエルによるイランへの先制攻撃に抗議し、即時中止を求める
(談話)

2026年3月2日
安保破棄中央実行委委員会
事務局長 東森英男

米国は2月28日、イスラエルとともにイランに対する大規模な先制攻撃を開始し、イランの最高指導者ハメネイ師を殺害しました。そしてトランプ大統領は、イラン国民に対して政権打倒の蜂起を呼びかけています。

トランプ政権によるこのような行為は、先制攻撃を認めていない国連憲章への明確な違反行為であり、主権国家に対する政権転覆は国際秩序と法の支配に反するものです。

私たちは、トランプ政権による、今年はじめのベネズエラへの軍事侵攻と大統領拉致に続く今回の暴挙に強い怒りを持って抗議し、直ちに軍事攻撃を中止するよう求めます。

この件について国連のグテレス事務総長は28日の国連安保理の緊急会合で、米国・イスラエルのイラン攻撃について「国際の平和と安全への重大な脅威」との認識を示し「さらなる事態の悪化を防ぐため、あらゆる手を尽くさなければならない」と述べました。

このような事態に対する高市政権の対応は極めて重大な問題があります。

高市首相は、米国・イスラエルによるイランへの先制攻撃について3日の国会答弁で「イランによる核兵器開発は決して許されない」「イランに対し周辺国への攻撃を含む地域を不安定化させる行動をやめるとともに、交渉を含む外交的解決を強く求める」と述べたものの、米国・イスラエルによる軍事攻撃には言及していません。2月1日に出された茂木外務大臣の談話においては、核開発をめぐる米国とイランの協議を「強く支持してきた」と述べるだけで、協議の途中で米国が先制攻撃をおこなったことには触れていません。

このような高市政権の対応は、「法の支配」を強調する日頃の態度とは裏腹に、米国・トランプ政権への露骨な追従的姿勢を示しており、絶対に認められません。

私たちは、国際秩序を破壊し「力の支配」へ突き進むトランプ政権と、それに追従して恥じない高市政権を許さず、世界とアジアの平和構築に向けて、国内外の共同による運動を広げる決意です。

以上